



つなぐ、むすぶ、広げる、未来へ

The Next Perspective



株式会社 横河ブリッジホールディングス

証券コード：5911

YBHD NEWS No.35



株主通信

平成25年8月



代表取締役社長

吉田 明

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに株主通信「YBHD NEWS」第35号をお届けいたします。

我が国経済は、政府の経済政策への期待から、円安・株高などが進み、緩やかな景気回復への動きが見られますものの、当社グループを取り巻く現下の事業環境は、先行きの不透明感は拭いきれず、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社グループは、本年4月からスタートいたしました第3次中期経営計画の着実な遂行を通じて、事業の発展と経営基盤の強化に努めてまいります。

役員・従業員一同、株主の皆様のご期待に応えられますよう、なお一層の努力をしておりますので、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年8月

平成25年7月30日に、平成26年3月期第1四半期（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）の決算短信を公表いたしましたので、その概況につきましてご紹介いたします。

連結経営成績(累計)

	平成26年3月期第1四半期	平成25年3月期第1四半期
売上高	19,684 百万円	19,480 百万円
営業利益	1,067 百万円	78 百万円
経常利益	1,135 百万円	123 百万円
四半期純利益	614 百万円	42 百万円

【連結経営成績に関する定性的情報】

当社グループの当第1四半期の受注高は201億1千万円（前年同期比55億9千万円増）となりました。

セグメント別の受注高は、橋梁事業136億4千万円（同39億8千万円増）、エンジニアリング関連事業59億1千万円（同13億2千万円増）、先端技術事業5億5千万円（同2億8千万円増）となりました。

決算面につきましては、当第1四半期の売上高は196億8千万円（同2億円増）、営業利益は10億6千万円（同9億8千万円増）、経常利益は11億3千万円（同10億1千万円増）、四半期純

利益は6億1千万円（同5億7千万円増）となりました。

セグメント別の売上高は、橋梁事業130億4千万円、エンジニアリング関連事業57億8千万円、先端技術事業6億4千万円、不動産事業2億1千万円となりました。

橋梁事業の売上高は前年同期を若干下回りましたが、採算の良い工事の割合が増加したことなどからセグメント利益は増加いたしました。エンジニアリング関連事業、先端技術事業につきましては受注高、売上高、セグメント利益は前年同期に比べ増加いたしました。

平成26年3月期の連結業績予想

	第2四半期連結累計期間 (平成25年4月1日～平成25年9月30日)		通 期 (平成25年4月1日～平成26年3月31日)	
	修正前	修正後	修正前	修正後
売上高	43,000 百万円	43,000 百万円	90,000 百万円	90,000 百万円
営業利益	1,500 百万円	1,750 百万円	3,250 百万円	3,500 百万円
経常利益	1,550 百万円	1,800 百万円	3,300 百万円	3,550 百万円
当期（四半期）純利益	1,000 百万円	1,150 百万円	2,000 百万円	2,150 百万円
1株当たり当期（四半期）純利益	23円16銭	26円63銭	46円31銭	49円79銭

【連結業績予想に関する定性的情報】

全体の業績が概ね計画どおりに進捗する中、第1四半期の好調な受注により営業利益の改善が見込まれます。そのため、当初の予定より第2四半期連結累計期間および通期の連結業績予想を修正いたしました。

社長インタビュー ～第3次中期経営計画を語る～



横河ブリッジホールディングス 吉田社長に、今年4月にスタートした第3次中期経営計画(以下、「本計画」)についてインタビューしました。

Q₁ 「本計画」の基本方針として、「筋肉質で強固な企業基盤を有するグループに再構築する」、「新規事業の開発に取り組む」の2つを掲げていますが、その意図するところは？

A₁ 1つ目の基本方針は、グループの不要なあるいは重複している設備、組織、部門等を廃止することでスリム化を目指し、貴重な経営資源である「ヒト・モノ・カネ」を最も有効に活かすことを目指しています。一例として最適生産体制の構築があげられます。また、もう1つは、グループの将来の発展に向け、現在当社グループで働いている皆さんが、夢や希望を持てるような新しい事業を開発することを意図しています。

Q₂ 「エンジニアリング関連事業の強化」を謳っていますが、具体的な戦略は？

A₂ 今後、国内の新設橋梁の発注量が増加することは期待できません。従いまして、それを補完する事業を育てることが喫緊の課題です。このエンジニアリング事業の強化に関しましては、南海トラフ大地震等に備える防災・減災と都市内大環状道路の大深度地下トンネルへの対応がキーワードになります。具体的には、地震や津波対策としての海洋構造物や港湾構造物への進出、たとえば防潮堤の鋼構造化、プレキャスト化への対応が考えられます。また、大深度地下化に関しては、安全性や耐久性、経済性、短工期化が求められる中で、トンネル向けの床版や鋼殻セグメントの需要が増えると予想しています。

Q₃ 橋梁の生産体制の再構築についてはいかがですか？

A₃ 現在、グループ内に4つある橋梁工場の生産体制の見直しを行います。具体的には、横河ブリッジの大阪工場を新設橋梁製作の主要拠点とし、横河住金ブリッジの鹿島工場と榑崎製作所の室蘭工場でも新設橋梁の製作を行いますが、今後はエンジニアリング関連製品の生産を拡大していきます。また、従来、保全・補修関連の部材製作を行ってきた横河工事の利根工場は、架設工事用機材の保管やメンテナンスに機能を絞り込みます。これらを実行することにより、人員の効率的な配置にもつながると考えています。

Q₄ 新規事業開発室を設置しましたが。

A₄ 狙いは先ほど申し上げたとおり、従業員が夢や希望を持てる事業を開発することです。各グループ会社から集まった企画・開発部門の担当者が、グループ各社が持っているさまざまな要素技術の情報を共有し、新しいアイデアを是非生み出して欲しいと思っています。従来、各社毎に開発部門はありましたが、グループを束ねる組織がありませんでした。既に検討会議を複数回実施しており、100を超えるアイデアが出されています。

Q₅ 「本計画」がスタートして約半年経過しますが、進捗状況は？

A₅ 「本計画」を実行するために各種検討委員会が設置され、活発な議論が行われています。また、スリム化の一環として、業務に直接関係のない保有不動産の整理を行っています。4月以降2件の不要不動産の売却を実施しました。

Q₆ 最後に株主の皆様へメッセージをお願いいたします。

A₆ 変化が激しい時代と言われて久しいのですが、現在は、今までどおりの考え方や発想に囚われては生き残っていきません。当社グループは、「本計画」の遂行を通じて事業の発展と経営基盤の強化に努めてまいります。株主の皆様におかれましては、なお一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

以上

Topics

2

太陽光発電 (YPV) システムのご紹介

株式会社横河システム建築が設計・施工した太陽光発電システムをご紹介します。

本工事は、若者向けカジュアル衣料品ブランドを多数展開する株式会社ポイント様の東日本最大の物流拠点である茨城西物流センターの屋根に約1メガワットの太陽光発電システムを設置するという工事でした。

遡ること2010年5月にyess建築で施工完成した本建屋は約20,000㎡(幅143.5m×長さ138.2m×軒高5.4m)の建築面積を有する建物です。その屋根に太陽光発電を設置したいとのご依頼をいただき、「2013年3月11日の系統連系日(売電開始日)」を目標に、設置工事をスタートしました。晴天にも恵まれ、太陽電池モジュール(総数4,164枚)の設置を約1ヶ月で完了し、配線・配管工事やパワーコンディショナー・変電設備設置といった工事を含め、実働2ヶ月で連系可能な状態にまで漕ぎ着け、無事3月11日に連系・売電を開始することができました。

今回設置した発電システムは、一般家庭約280世帯分の使用電力を賄うシステム構成で、東日本大震災以降の「電力不足解消」と「再生可能エネルギーの普及拡大」に貢献することが大いに期待されています。

※YPVシステム(Yokogawa PhotoVoltaic power generation system)はyess建築向けに標準化した設計・施工方法により低価格・短工期を実現した「太陽光発電システム」です。

<概要>

Point茨城西物流センター太陽光発電事業

- ・太陽電池モジュール枚数：4,164枚(1枚あたり240W)
- ・発電システム容量：4,164枚×240W=999.360kW
- ・パワーコンディショナー：4台×250kW=1,000kW



太陽電池モジュール



物流センター全景

Topics

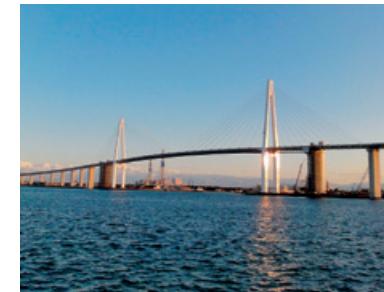
3

平成24年度 土木学会「田中賞」を受賞

※土木学会「田中賞」は、昭和41年度より、橋梁・鋼構造工学に関する優秀な業績に対して授与される権威ある賞です。

当社グループの株式会社横河ブリッジが製作・施工に参画しました3工事が、平成24年度土木学会「田中賞」(作品部門)を受賞いたしましたのでご紹介します。

新湊大橋



発注者：国土交通省北陸地方整備局
所在地：富山県射水市
形式：5径間連続複合斜張橋
橋長：600m

富山県内の橋梁では初の田中賞受賞です。

第二音戸大橋



発注者：広島県
所在地：広島県呉市
形式：鋼中路式ニールセンローゼ
橋長：292m

音戸ノ瀬戸で有名な伝説の「平清盛の日招き伝説」にちなみ「日招き大橋」の愛称で地元可愛されています。

阿波しらさぎ大橋



発注者：徳島県
所在地：徳島県徳島市
形式：4径間連続ケーブルイグレット
ト钣桁橋他
橋長：1,291m

世界初のケーブルイグレット形式を採用、ケーブルがしらさぎ(イグレット)の羽ばたきに似ているために名付けられました。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金 交付株主確定日	毎年3月31日、なお、中間配当を行う場合は、 毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 〒100-8233 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他 やむを得ない事由によって電子公告による公 告をすることができない場合は、日本経済新聞 に掲載して行います。
公告掲載URL	http://www.ybhd.co.jp/

YBHDグループ



株式会社 横河ブリッジホールディングス
グループ全体の経営管理



株式会社 横河ブリッジ
橋梁・橋梁関連製品・精密機器製造



横河工事株式会社
土木・建築・保全



株式会社 横河システム建築
システム建築・開閉式建築システム・環境



株式会社 横河住金ブリッジ
橋梁・橋梁関連製品・セグメント



株式会社 檜崎製作所
橋梁・水処理・環境製品・鉄構製品



株式会社 横河技術情報
情報処理サービス・ソフトウェア開発



株式会社 横河ニューライフ
不動産管理・情報システム・人材派遣



株式会社 ワイシーイー
橋梁等構造物の総合エンジニアリング

『復興特別所得税』についてのご案内

(平成24年4月時点での情報を基に作成しております。)

平成23年12月2日に「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法(平成23年法律第117号)」が公布されました。これに伴い、所得税全体を対象として、平成25年1月から平成49年12月までの25年間、基準所得税額に対し2.1%の『復興特別所得税』が課税されることとなりますので、ご案内申し上げます。

なお、上場株式等の配当等に関する具体的な税率は、右表をご参照願います。

復興特別所得税を加算した 上場株式等の配当等に係る税金

		平成25年	平成26年～平成49年	平成50年～
		 25年間基準所得税額に対し、 2.1%の付加税が上乗せされます		
上場株式等の配当等に係る 税金と税率	所得税	7.147%	15.315%	15%
	住民税	3%	5%	5%
合 計		10.147% 【軽減税率】	20.315%	20%

平成25年1月以降の所得税率の計算方法 →
 平成25年1月～平成25年12月 ⇒ 7% + 7% × 2.1% = 7.147%
 平成26年1月～平成49年12月 ⇒ 15% + 15% × 2.1% = 15.315%

※上記税率は源泉徴収が行われる場合の税率です。なお、内国法人の場合は住民税が徴収されません。
 ※発行済株式の総数等の3%以上に相当する数または金額の株式等を有する個人の大口株主様につきましては、別の税率となりますので、ご注意ください。
 ※以上より、平成25年1月1日以降にお受け取りになる配当金計算書等について、所得税に関する表記が変更になる予定です。
 ※詳細につきましては、所轄の税務署にお問い合わせください。

※表紙の写真は、施工中の東京外環自動車道新葛飾橋(埼玉県三郷市～千葉県松戸市)の送出し架設の様子
鋼7径間連続箱桁橋(橋長506m)